

生家の床に刻まれたドニゼッティの手紙の一文



生家の床には、ガエターノが晩年になって手紙に綴った、有名な一節が刻まれている。

《私はボルゴ・カナーレの地下に生まれました。光の影が全く入り込まない、地下の階段を降りていくのです。そして私は、ある時は悲しい、ある時は幸福な予感を抱えながら、まるでフクロウのようにそこを飛び立ったのです》(1843年7月15日、ミュンヘンより、師マイル宛)。

暗い貧しいこの家でドニゼッティの感性が培われ、独特のコントラストのある鋭敏な音楽とインスピレーションを創り出した。